



希望の倫理

12月19日発売

ユルゲン・モルトマン著／福嶋揚訳

◆四六判・上製・460頁・本体4000円

希望の地平において行動するために

モルトマン神学の中核に位置する変革的終末論の全面展開。現代世界を脅かす様々な難問に立ち向かう大綱的な行動指針を導き出すとともに、究極的な平和と安息のヴィジョンを提示する。

バイオ技術と生命操作、開発と環境破壊、広がる格差と紛争、テロと管理社会など、複雑で困難な課題が山積する現代世界に対して、キリスト教はいかなるメッセージを発しうるのか。終末論的に生きることの真の意味、そこに秘められた希望とエネルギーを聖書から捉え直し、21世紀の神学的倫理を構築しようとする意欲作。



『希望の神学』（1964年）によって華々しくデビューした著者は、その後次々と意欲的な書物を通して戦後神学界をリードしてきた。そして46年後、自らの神学的営為を総括する倫理学を發表した。それが本書である。

【目次より】

第I章 終末論と倫理

- 第1節 黙示録的な終末論
- 第2節 キリスト論的な終末論
- 第3節 分離主義的な終末論
- 第4節 変革的な終末論

第II章 生命の倫理

- 第1節 生命の文化
- 第2節 医療の倫理
- 第3節 健康と病気における生命力
- 第4節 死にゆくことと死ぬことの中に
ある生命力
- 第5節 肉体の復活？

第III章 地球の倫理

- 第1節 地球の空間において
- 第2節 地球の時間の中で
- 第3節 生態系
- 第4節 地球の倫理

第IV章 正義に基づく平和の倫理

- 第1節 判断形成の基準
- 第2節 神的な義と人間的な義
- 第3節 キリスト教における電殺しと平和づくり
- 第4節 管理は良いが信頼はもつと良い
- 第5節 神の義および人間と市民の権利

第V章 神への喜び——美的な対位法

- 第1節 安息日——創造の祝祭
- 第2節 キリストの復活の歓喜
- 第3節 「そして争いのただ中の平和」

【モルトマン組織神学論叢】

三位一体と神の国

神論〈組織神学論叢 1〉

土屋 清訳

キリスト教的唯一神論を厳しく批判し、三一論的神学の今日的意義を「開かれた」「社会的・歴史的な三位一体論」の形で展開する意欲作。 404頁 本体 4500円

神の到来

キリスト教的終末論〈組織神学論叢 5〉

蓮見和男訳

現代社会と宗教最大の問題である終末論を人間と社会の新しい創造の問題と捉え、個人的・歴史的・宇宙的終末論の壮大な構想を展開する。 600頁 本体 6600円

神学的思考の諸経験

キリスト教神学の道と形〈組織神学論叢 6〉

沖野政弘訳

モルトマン神学の掉尾を飾る方法論の開示。あらゆる立場、解釈、人や出来事との出会いの経験から、神学とは何かを徹底的に論じる。 480頁 本体 6400円

その他の著作

わが足を広きところに

モルトマン自伝

蓮見幸恵／蓮見和男訳

生い立ち、戦争と虜囚、修学と神学形成、その後の独創的な思想展開などをつぶさに記した神学的自伝。20世紀神学史としても興味尽きない。 552頁 本体 5700円

科学と知恵

自然科学と神学の対話

蓮見和男・蓮見幸恵訳

科学技術の発展への神学知の意義を、東洋的な自然観とも積極的に対話しつつ、聖書的な創造観の豊かな可能性を示唆しながら提示する。 320頁 本体 2800円

希望の神学

キリスト教的終末論の基礎づけと帰結の研究
高尾利教訳 〈オ〉

ブロッホと深く対話しつつキリスト教固有の未来的終末論を評価し、その実践的意味を解明。希望の宗教としてのキリスト教を力強く弁証。 490頁 本体 5800円

十字架につけられた神

〈オンデマンド・ブック〉

喜田川信他訳

不受苦の神観念に異議申し立てをし、神に棄てられた中で死んで行ったイエスを神論の重要な次元として取り上げた問題作。

530頁 本体 5800円

聖霊の力における教会

〈オンデマンド・ブック〉

喜田川信他訳

解放の神学の基礎共同体論から大きな刺激を受けつつ、世界を革新する力としての聖霊論の視点から構築されたモルトマン渾身の教会論。 582頁 本体 5200円

終りの中に、始まりが

希望の終末論

蓮見幸恵訳

モルトマンが牧会者・教育者として、自らの終末論神学を平易に説く。個人の死後から世界全体の将来の運命までを貫く、希望の終末論。 270頁 本体 2700円

いのちの泉

聖霊といのちの神学

蓮見幸恵訳

組織神学論叢 4の聖霊論をふまえて、現代人にとっての聖霊の意味と働きを平易かつ的確に語り、霊性溢れる生活の道を示す好著。 240頁 本体 2600円

政治的宗教と政治的神学

J. ルトマン／J. B. メッツ著 蓮見和男訳

現代宗教の政治的形態「非政治的宗教」の政治性を批判し、行動的な十字架の神学を展開する。 164頁 本体 1200円

フェイス・パウアーズ著／片山寛・加藤英治訳 知的障害者と教会 (仮題)

ハンディキャップを持つ人々と共に歩む教会はどうあるべきか。伝道、信仰告白、教会教育、礼拝の持ち方などを具体的に考える。著者はダウン症をもつ息子の母であり、ロンドンにあるバプテスト教会の信徒。

◆四六判・予価2000円

永本哲也／早川朝子／山本大丙ほか 旅する教会 宗教改革と再洗礼派

再洗礼派はルター派、カルヴァン派双方から異端とされ弾圧されたが、その福音理解や社会参与は近現代の社会に大きな影響を及ぼした。宗教改革500年をたんなる主流派の顕彰に終わらせないために。9人の若手研究者による共同研究の成果。

◆四六判・予価2500円

木ノ脇悦郎著

宗教改革の人間群像 エラスムスと文通者たち

『痴愚神礼讃』を著し、新約聖書のギリシャ語本文を初めて校訂し、宗教改革運動に寄与したが、自由意志論をめぐってルターと対立、後に改革陣営から絶縁された16世紀最大の人文主義者。彼はまた偉大な文通者でもあった。書簡から浮かび上がる改革者たちの人間群像。

◆四六判・予価3000円

● 11月に出た本と雑誌

十字軍とイスラーム世界

神の名のもとに戦った人々

ロドニー・スターク著、櫻井康人訳



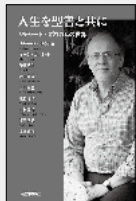
十字軍は果たして野蛮な侵略者だったのか。綿密な史的検討を通して通説的なイメージをくつがえし、中世における東西世界の衝突の真相に迫った話題作。

◆四六判・本体3200円

人生を聖書と共に

リチャード・ボウカムの世界

R・ボウカム、M・エリオット、伊藤明生、岡山英雄、山口希生、浅野淳博、小林高德、横田法路、遠藤勝信著



ボウカムの古希を記念し、学恩を被る日本人研究者たちが主要著作を概説。新約神学の最前線への道案内ともなっている。

◆四六判・本体1850円

福音と世界

◆税込635円

12月号 特集 降誕物語をどう読むか

聖書解釈の視座と方法

寄稿者：廣石望、木原桂二、大宮有博、東よしみ、小林昭博、平野克己、芦名定道、金必順、内田樹、佐藤優、辻学、月本昭男、秋葉睦子、吉松純、藤原佐和子ほか

●2016年の年間ベストセラーを、大手取次の日販とトーハンが発表しました。1位は両社とも石原慎太郎の『天才』（幻冬舎）、2位は同じくカール・ヨハン・エリーソン『おやすみ、ロジャー』（飛鳥新社）。3位は日販が『ハリー・ポッターと呪いの子』（静山社）、トーハンが大川隆法『正義の法』（幸福の科学出版）だったそうです（集計期間は15年11月27日～16年11月25日）。読者の皆様はどのような感想を持たれるでしょうか。ちなみに編集子はどれも読んでいません。毎年この時期ベストセラーの発表に接すると、自分が出版をなりたいとしているくせに「世の中」で最も売れている本にはいかに無関心で生きているか、また無縁な所で仕事をしているかを、改めてしみじみ(?) 思います。

●もう少し小社に近いところでは、小社も属する出版梓会の第32回「梓会出版文化賞」に大月書店が選ばれました。この賞は出版社を対象とする珍しいもので、「優れた出版活動を行っている出版社を激励すること」を目的としています。大月書店は、『バーニー・サンダース自伝』や『SEALDs 民主主義ってこれだ!』などが高く評価されました。●寂しいニュースは、岩波ブックセンター信山社が11月末に破産したこと。岩波の本をはじめ硬派の出版物の品揃えが充実し、神保町に出向けば時間がある限り立ち寄り、様々な本と出会わせてもらった思い出の書店だけに残念です。振り返れば2月に芳林堂が破産したこともショックでした。編集子は中学生の頃、同池袋店の書棚に差されていた高橋三郎著『キリスト信仰の本質』を、著者が誰かも知らず、ただその書名に惹かれて買いました。それがキリスト教書を購入した初めての経験でした。中学生にはとうい読み通すことのできない本でしたが、新教出版社という版元の名はなぜか記憶に残り、やがて様々な経緯でそこに就職するようになるのですから、書店が用意してくる出会いには不思議なものです。●皆様には抗しがたいものがあります。ネット書店の便利さには抗しがたいものがあります。足を運ばねばと自戒すること頻りです。●皆様にクリスマスと新年の祝福をお祈り申し上げます。

福音と世界

2017年

1

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8460円

特集・信徒と教職——宗教改革500年①

賜物と課題としての全信徒祭司性——宗教

改革500年目の節目に考える……江藤直純

公会議以降のカトリック教会における信徒理解……有村浩一

万人祭司とキリスト集会派……川向肇

賜物が豊かに用いられる教会となるために

——日本キリスト改革派教会における
女性教師・長老問題……袴田康裕

信徒と教職の権威を考える——信徒の

つぶやき……李 恩子

ユダヤ教と万人祭司……山森みか

新約聖書・初期キリスト教における「信徒」と「教職(制)」について……村山盛章

【連載より】

◆みことば散歩 1……望月麻生

◆アメリカの神学と教会のいま 3……吉松 純

◆現代神学の冒険 4……芦名定道

◆新約釈義 第一メモテ書 11……辻 学

◆レヴィナスの時間論 22……内田 樹

◆ことばの履歴書 34……佐藤 優

◆詩篇の思想と信仰 141……日本昭男